

学習指導要領のコード化（案）について

初等中等教育局
学びの先端技術活用推進室



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

学習指導要領のコード化の必要性

現状

- 令和元年度から推進されたGIGAスクール構想により、児童生徒の1人1台端末環境が整備されており、学習履歴をデジタルで蓄積することが容易になっている。
- 一方、教材等には各社ごとに学習内容に独自のコードを付番して活用しているが、各学校・児童生徒は教科書・教材や学習ツールごとにコードが異なっているためデータを当該サービス内でしか活用できず、学校・個人ごとに横串を通して体系的に分析を行うなどの利活用や展開ができない状況。



- 今後、ますます利活用が増加することが見込まれる学校・家庭におけるデジタルを活用した学習において、学習系データを横断的・体系的に活用するためには、使用する教材・サービスに関わらず共通のコードを使用することが必要。
- 学習系データをどこまでの粒度で把握するのか等に関しては様々な考え方があるが、まず、全国の学校で共通で用いられており、学校の学習内容の標準として国が示している学習指導要領の内容・単元等に共通のコードを設定（学習指導要領のコード化）することが必要。

文部科学省「新時代の学びを支える先端技術活用方策（最終まとめ）」令和元年6月

学習系データを事業者や使用者に関わらず、横断的・体系的に活用するため、学校の学習内容の標準として国が示している学習指導要領に基づき、内容・単元等の共通コード（学習指導要領のコード化）を設定する。

学習指導要領のコード化に関するこれまでの議論①

- 平成29年2月に「学習指導要領における各項目の分類・整理や関連付け等に資する取組の推進に関する有識者会議」（座長：堀田龍也東北大学大学院教授）を設置。
- 第1回（平成29年2月24日）会合で(1)有識者・関係団体へのヒアリング、(2)論点提示を行った。

(1) 有識者・関係団体へのヒアリング時の主な御意見 →学習指導要領のコード化に多くの期待が示された。

ヒアリング発表者	取組	国のコード付与への期待
浦川委員 (NHK放送技術研究所研究員)	学習指導要領と映像教材の紐づけ（項目内の記述との紐づけ）	・映像教材含め、 <u>学習指導要領に示す3つの資質・能力と構造的に結びついた様々なアプリケーションの開発</u> につながる。
緒方委員（九州大学主幹教授）	学生のe-learningなどにおける学習履歴をデータベース化し、教師の授業や学生の学習の改善につなげる	・学習指導要領と結びついたデジタル教材の学習履歴を把握・活用することで、 <u>授業改善や学習評価にも資する</u> 。
教科書協会 (東京書籍)	発行する教科書の単元を「減災・防災教育」、「問題解決能力の育成」で横串を通す試み	・異なる発行者の教科書間での教科横断的な資質・能力の育成につながる。（防災・減災教育、課題解決能力） ・学習指導要領と紐づいたコードにより、 <u>教科書と多様な資料（図書教材・デジタル教材）とがつながり、学びを広げ、深めることが可能</u> となる。
全国図書教材協議会	教科書と紐づいた資料集・学習帳、ドリル、テストを開発	・ <u>学習指導要領と結びついた教材体系の強化</u> （知識及び技能、思考力、判断力、表現力等） ・ <u>評価分析・学習履歴の共有化</u> につながる
日本教育情報化振興会 ICTCONNECT21	学習指導要領の内容に独自のコードを振った上で、さらに、その内容を、教科書の単元や教材との紐づけにつながるよう要素に分けたリスト（学習要素リスト）を開発	・国主導により学習指導要領の内容にコード付与されれば <u>学習要素リストの作成・共有がより容易</u> になる

(2) 論点の提示と主な議論

① 国内外の事例を踏まえた現状と課題の整理

- ・ 教科書、副教材、デジタル教材の開発など、それぞれの分野において、学習指導要領の内容項目と紐づけた独自の取組が展開されている。各主体の取組に閉じられており、全体としての広がりが課題。
- ・ 民間や教育委員会、学校等の取組の創意工夫や主体的な取組を促すことを目的として、国が主導して学習指導要領に一定の考え方によりコードを付与する必要がある。

② コード試案の作成方針と留意点の整理

- ・ 国のやるべき範囲と業界の自主性に任せる範囲など、切り分けが必要。
- ・ 活用方法を広げるため、まずはシンプルに決めた方がよい。
- ・ コードの最小単位（1センテンスずつ等）をどうするか等、利活用しやすい粒度があるはず。

③ 今後の活用と試案の改善に向けた体制とスケジュール

- ・ 活用方法は様々であり、想定が難しい。公表されたコードを見て、今後様々な発想をする関係者がいるはず。
- ・ 取り急ぎできる範囲と研究を進めながらやっていく範囲に区分けし、短期的な目標と中期的な目標を分けて考える必要がある。

学習指導要領のコード化の基本的な考え方

①方針

- ・ 将来的な活用も視野に入れ、学習指導要領のできる限り広い対象をコード化する。
(現時点で必ずしも活用の用途が定まっていなくても、用途の拡大や技術の進展による分析等が考えられるため。)
- ・ G I G A スクール構想の加速化を受け、できる限り早く活用が可能となるよう、令和2年夏頃に公表を行う。

②対象

学校種：全学校種（幼・小・中・高・特別支援学校）、全教科

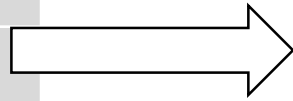
改訂年度：これまでの全てを対象。今回、実際にコード化するのは「平成20～21年改訂」及び「平成29～31年改訂」分とし、今回対象分以外のコード化は今後検討。

③コード付与の考え方

- ・ 学習指導要領の全項目（総則、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間等）をコード付与の対象とする。（前文のみ除く。）
- ・ コード番号は、学校種、教科、学年等の最小限の分類だけを行い、冒頭から順に機械的に付与する。

学習指導要領のコード化のイメージ（総論）

総則 教育課程編成の基本的な考え方や、授業時数の取扱い、配慮事項などを規定		
各教科 道徳 特別活動等	①目標	目標
	②各学年の目標及び内容	内容
		内容の取扱い
	③指導計画の作成と内容の取扱い	



例

理科

(2) 植物の養分と水の通り道 植物について、その体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (7) 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。 (4) 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されること。 イ 植物の体のつくりと働きについて追究する中で、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。	826063220000000 826063221000000 826063221100000 826063221200000 826063222000000 826063230000000 826063231000000 826063231100000 826063231200000 826063231300000
(3) 生物と環境 生物と環境について、動物や植物の生活を観察したり資料を活用したりする中で、生物と環境との関わりに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (7) 生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。 (4) 生物の間には、食う食われるという関係があること。 (7) 人は、環境と関わり、工夫して生活していること。	826063230000000 826063231000000 826063231200000 826063231300000

学習指導要領の総則、各教科等の全ての項目を対象にコード化する。

学校種、教科、学年等の最小限の分類し、冒頭から順に機械的にコードを付与

学習指導要領のコード付与の考え方

学習指導要領の冒頭から順番に16桁のコードを割り振る。
その際、学校種、教科、学年等の検索が容易となるように桁に一定のルールを設ける。

8 2 1 0 6 3 XXXXXXXXXX 0

第1桁 第2桁 第3桁 第4桁 第5桁 第6桁 第7桁～第15桁 第16桁

桁	区分	考え方
第1桁	告示時期	最初の学習指導要領（昭和22年刊行）を「0」とし、以降、全面改訂の時期毎にコードを割り当てる。（平成29～31年改訂は「8」）
第2桁	学校種別	幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の区分で分類。 ※特別支援学校は、さらに「幼稚部」「小学部」「中学部」「高等部」に分類し、各分類に「視覚・聴覚・肢体・病弱」と「知的」の区分も規定。
第3桁	教科	総則及び教科等を規定する。 ※幼稚園については、「ねらい及び内容」「留意事項」の項目、特別支援学校については、「障害種別の配慮事項」の項目を規定。
第4桁	分野・科目・分類	小学校及び中学校の分野、高等学校の科目を規定し、分野単位、科目単位にコードを割り当てる。 ※割り当てコードは61種類（1～9，A～Z，a～z）のため、今後、科目追加によりコードが不足する場合は、第3桁の教科にコードを追加し対応する。ex) 教科コード：Q（工業）⇒ Q（工業1），p（工業2）
第5桁	学年・段階	学年及び段階を規定する。 ・小学校・中学校は複数の学年（「第○学年及び第○学年」）の規定がある場合、学年コード（第1学年等）とは別のコードを割り当てる。 ・特別支援学校知的教育課程は「学年」の概念はないため、発達の程度等による「段階」での区分とする。 ・幼稚園、特別支援学校幼稚部及び高等学校は「学年」の概念はないため、「区分なし」のコードを割り当てる。
第6桁	目標・内容・内取	教科及び分野・科目・分類ごとに設定されている「目標」・「内容」・「内容の取扱い」等の区分を規定。
第7桁～第15桁	細目	第7桁から第15桁の9桁分は、冒頭から順に、階層ごとに桁を割り当て、コードを割り振る。 ※新学習指導要領（平成29・30・31改訂）で使用される細目の最長桁数は8桁となり、1桁（第15桁）を予備桁とする。
第16桁	一部改正	第1桁で示す各告示時期において行われた一部改正の状態を表す。 一部改正がない状態は「0」、一部改正を行った場合は、その順番に応じて順次、「1」、「2」等のコードを付与する。 ※一部改正により、修正があった箇所のみコードを付与する。

学習指導要領の変遷とコード付与の考え方（第1桁：告示時期、第16桁：一部改正）

1桁目：昭和22年の学習指導要領を「0」とし、全面改訂ごとにコードを割り当てる
 16桁目：一部改正を行っていない場合は「0」、一部改正を行った場合は、該当箇所のみ都度コードを付番する

8210631...0

改訂時期	第1桁	改訂時期	第1桁
昭和22年	0	平成元年改訂	5
昭和26年改訂	1	平成10～11年改訂	6
昭和33～35年改訂	2	平成20～21年改訂	7
昭和43～45年改訂	3	平成29～31年改訂	8
昭和52～53年改訂	4		

□ 一部改正が行われた場合には、該当箇所のみ16桁目を変更したコードを付番

(例)

【一部改正前】

(1) ○○○○○○○○○○○○。

第16桁
X ... 0

(2) ○○○○○○○○○○○○。



【一部改正後】

(1) △△△△△△△△△△。

第16桁
X ... 1

(2) ○○○○○○○○○○○○。

同じ箇所が再び改正された場合、「2」となる。

改正されていない箇所は新たに付番しない

学習指導要領のコード付与の考え方（第2桁：学校種別）

8**2**10631...0

第2桁（学校種+障害種）	引用する学習指導要領等
1：幼稚園	幼稚園教育要領
2：小学校	小学校学習指導要領
3：中学校	中学校学習指導要領
4：高等学校	高等学校学習指導要領
5：特別支援学校幼稚部（障害分類なし）	特別支援学校幼稚部教育要領
6：特別支援学校小学部・中学部（障害分類なし）	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（総則）
7：特別支援学校小学部（視覚・聴覚・肢体・病弱）	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（小学校・中学校に準ずる課程）→自立活動を選択可能 自立活動以外は3桁目以降を小学校学習指導要領と同一コードとする
8：特別支援学校小学部（知的）	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（知的障害の教育課程）
9：特別支援学校中学部（視覚・聴覚・肢体・病弱）	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（小学校・中学校に準ずる課程）→自立活動を選択可能 自立活動以外は3桁目以降を中学校学習指導要領と同一コードとする
A：特別支援学校中学部（知的）	特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（知的障害の教育課程）
B：特別支援学校高等部（障害分類なし）	特別支援学校高等部学習指導要領（総則）
C：特別支援学校高等部（視覚）	特別支援学校高等部学習指導要領（高等学校に準ずる課程）→自立活動、保健理療、理療、理学療法を 選択可能 それ以外の教科は3桁目以降を高等学校学習指導要領と同一コードとする
D：特別支援学校高等部（聴覚）	特別支援学校高等部学習指導要領（高等学校に準ずる課程）→自立活動、印刷、理容・美容、クリーニング、 歯科技工を選択可能 それ以外の教科は3桁目以降を高等学校学習指導要領と同一コードとする
E：特別支援学校高等部（肢体）	特別支援学校高等部学習指導要領（高等学校に準ずる課程）→自立活動を選択可能 それ以外の教科は3桁目以降を高等学校学習指導要領と同一コードとする
F：特別支援学校高等部（知的）	特別支援学校高等部学習指導要領（知的障害の教育課程）

※特別支援学校において、知的重複障害の場合は、障害種で知的を選択する。

学習指導要領のコード付与の考え方（第3桁：教科）

82**1**0631...0

教科	付与コード	通常・準ずる課程				知的の課程				備
		幼	小	中	高	特幼	特小	特中	特高	
国語	1		○	○	○		○	○	○	
社会	2		○	○				○	○	
地理歴史	3				○					
公民	4				○					
算数／数学	5		○	○	○		○	○	○	
理科	6		○	○	○			○	○	
生活	7		○				○			
音楽	8		○	○			○	○	○	

※なお、中学校における「その他特に必要な教科」や高等学校における「学校設定教科」については、「z」とする。

教科の接続のコード例

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
生活 〔コード：7〕	社会 〔コード：2〕					社会 〔コード：2〕			地理歴史〔コード：3〕		
									公民〔コード：4〕		
	理科 〔コード：6〕					理科 〔コード：6〕			理科〔コード：6〕		
									理数（専門）〔コード：Z〕		

- 同じ教科については、学校種を問わず、付与コードを同一化することで、今後の学習の見通しを持つことが可能
- 通常級と特支校（知）との間の転入学にも対応可能

学習指導要領のコード付与の考え方（第4桁：分野・科目・分類）

8210631...0

〔小学校・中学校・特支 小学部・特支 中学部〕

〔幼稚園〕

学校種別	教科 ※カッコ内は教科コード（第3桁）	領域	コード （第4桁）
幼稚園	ねらい及び内容 (m)	健康	1
		人間関係	2
		環境	3
		言葉	4
		表現	5

□ 幼稚園の領域、小学校及び中学校の分野等の領域単位、分野単位にコードを割り当てる

□ 分野等の区分がない教科等は、「0」を付与する
(総則の細目や各教科の目標、小中学校等の右表以外の教科が該当)

学校種別	教科 ※カッコ内は教科コード（第3桁）	分野・科目	コード （第4桁）
小・中・特支中	外国語 (H)	英語	1
		その他の外国語	2
小・特支小	外国語活動 (L)	英語	1
小・中	特別活動 (N)	学級活動	1
小学校		児童会活動	2
小学校		クラブ活動	3
中学校		生徒会活動	4
小・中		学校行事	5
		中学校	地理的分野
	歴史的分野		2
公民的分野	3		
中学校	理科 (6)	第1分野	1
		第2分野	2
中学校	保健体育 (G)	体育分野	1
		保健分野	2
中学校	技術・家庭 (C)	技術分野	1
		家庭分野	2
特支・中	職業・家庭 (D)	職業分野	1
		家庭分野	2

学習指導要領のコード付与の考え方（第4桁：分野・科目・分類）

8210631...0

□ 分野等の区分がない教科等は、「0」を付与する
（総則の細目や各教科の目標、小中学校等の右表以外の教科が該当）

〔高等学校〕

教科 ※カッコ内は教科コード (第3桁)	科目	コード (第4桁)
国語 (1)	現代の国語	1
	言語文化	2
	論理国語	3
	文学国語	4
	国語表現	5
	古典探究	6
数学 (5)	数学Ⅰ	1
	数学Ⅱ	2
	数学Ⅲ	3
	数学A	4
	数学B	5
	数学C	6
工業 (Q)	工業技術基礎	1
	課題研究	2
	実習	3
	・ ・ ・	・ ・ ・
	デザイン史	x

〔特支 高等部〕

教科 ※カッコ内は教科コード (第3桁)	科目	コード (第4桁)
保健医療 (e)	医療と社会	1
	人体の構造と機能	2
	疾病の成り立ちと予防	3
	生活と疾病	4
	基礎保健医療	5
	臨床保健医療	6
	地域保健医療と保健医療経営	7
	保健医療基礎実習	8
	保健医療臨床実習	9
	保健医療情報	A
医療 (f)	課題研究	B
	医療と社会	1
	人体の構造と機能	2
	疾病の成り立ちと予防	3

- 科目単位にコードを割り当てる
- 割り当てコードは61種類（1～9，A～Z，a～z）のため、今後、科目追加によりコードが不足する場合は、第3桁の教科にコードを追加し対応する。
ex) 教科コード：Q（工業）⇒ Q（工業1），p（工業2）

※なお、高等学校における学校設定科目については、「z」とする。

学習指導要領のコード付与の考え方（第5桁：学年・段階）

8210**6**31...0

	学年コード (第5桁)	教科（カッコ内は教科コード※第3桁）														
		国語 (1)	社会 (2)	算数 (5)	理科 (6)	生活 (7)	音楽 (8)	図画工作 (9)	家庭 (F)	体育 (G)	外国語 (H)	特別の教科 道徳(K)	外国語活動 (L)	総合的な学習 の時間(M)	特別活動 (N)	
小 学 校	区分なし	0													○	○
	第1学年	1			○											
	第2学年	2			○											
	第3学年	3		○	○	○										
	第4学年	4		○	○	○										
	第5学年	5		○	○	○										
	第6学年	6		○	○	○										
	第1学年及び第2学年	A	○				○	○	○		○		○			
	第3学年及び第4学年	C	○					○	○		○		○	○		
	第5学年及び第6学年	D	○					○	○	○	○	○				

□ 学年・段階の区分がない教科等は、「区分なし」として「0」を付与する
（総則の細目や各教科の目標、総合学習等が該当）

〔例：小学校第4学年〕

- ・学習すべき内容の全体 ⇒ 「0」、「4」及び「C」
- ・算数 ⇒ 「4」
- ・国語 ⇒ 「C」
- ・総合的な学習の時間 ⇒ 「0」

学習指導要領のコード付与の考え方（第5桁：学年・段階）

8210**6**31...0

	学年コード (第5桁)	教科（カッコ内は教科コード※第3桁）																
		国語 (1)	社会 (2)			数学 (5)	理科 (6)		音楽 (8)	美術 (A)	技術・家庭 (C)		保健体育 (G)		外国語 (H)	特別の 道徳 の教科 (K)	総合的 な学習 の時間 (M)	特別 活動 (N)
			地理的 分野	歴史 的分野	公民 的分野		第1 分野	第2 分野			技術 分野	家庭 分野	体育 分野	保健 分野				
中 学 校	区分なし	0	○	○	○		○	○			○	○		○	○	○	○	○
	第1学年	1	○			○			○	○								
	第2学年	2	○			○												
	第3学年	3	○			○							○					
	第1学年及び第2学年	A											○					
	第2学年及び第3学年	B							○	○								



〔例：中学校第3学年〕

- ・学習すべき内容の全体 ⇒ 「0」、「3」及び「B」
- ・国語 ⇒ 「3」
- ・音楽 ⇒ 「B」
- ・総合的な学習の時間 ⇒ 「0」

□ 学年・段階の区分がない教科等は、「区分なし」とし「0」を付与する
(総則の細目や各教科の目標のほか、上記表のとおり)

学習指導要領のコード付与の考え方（第5桁：学年・段階）

8210**6**31...0

	段階コード (第5桁)	教科（カッコ内は教科コード※第3桁）											
		国語 (1)	算数 (5)	生活 (7)	音楽 (8)	図画工作 (9)	体育 (G)	特別の 道徳 の教科 (K)	外国語 活動 (L)	総合的 な学習 の時間 (M)	特別活 動 (N)	自立活 動 (O)	
特支小 (知)	区分なし	0								○	○	○	○
	第1段階	a	○	○	○	○	○	○	○				
	第2段階	b	○	○	○	○	○	○	○				
	第3段階	c	○	○	○	○	○	○	○				



〔例：特支小学部（知的）第3段階〕

- ・学習内容の全体 ⇒ 「0」及び「c」
- ・国語 ⇒ 「c」
- ・総合的な学習の時間 ⇒ 「0」

	段階コード (第5桁)	教科（カッコ内は教科コード※第3桁）													
		国語 (1)	社会 (2)	数学 (5)	理科 (6)	音楽 (8)	美術 (A)	職業・ 家庭 (D)	保健体 育 (G)	外国語 (H)	特別の 道徳 の教科 (K)	総合的 な学習 の時間 (M)	特別活 動 (M)	自立活 動 (O)	
特支中 (知)	区分なし	0										○	○	○	○
	第1段階	a	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	第2段階	b	○	○	○	○	○	○	○	○	○				



〔例：特支中学部（知的）第2段階〕

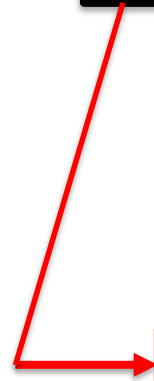
- ・学習内容の全体 ⇒ 「0」及び「b」
- ・数学 ⇒ 「b」
- ・総合的な学習の時間 ⇒ 「0」

□ 学年・段階の区分がない教科等は、「区分なし」とし「0」を付与する
（総則の細目や各教科の目標のほか、上記表のとおり）

※特別支援学校（知的）は障害の程度・発達の段階によって、学習指導要領の内容が変わるため「学年」ではなく「段階」で整理

学習指導要領のコード付与の考え方（第6桁：目標・内容・内容の取扱い等）

82106**3**1...0



分類	コード (第6桁)
ねらい	1
目標	2
内容	3
目標及び内容	4
内容の取扱い	5
指導計画の作成と内容の取扱い	6

- 教科及び分野・科目・分類ごとに設定されている「目標」・「内容」・「内容の取扱い」等の上記の区分ごとにコードを付与する。
- 上記の区分に該当しない項目は、「区分なし」とし「0」を付与する。

学習指導要領コードの付与のイメージ①（小学校）

〔 内 容 〕

小学校学習指導要領
理 科

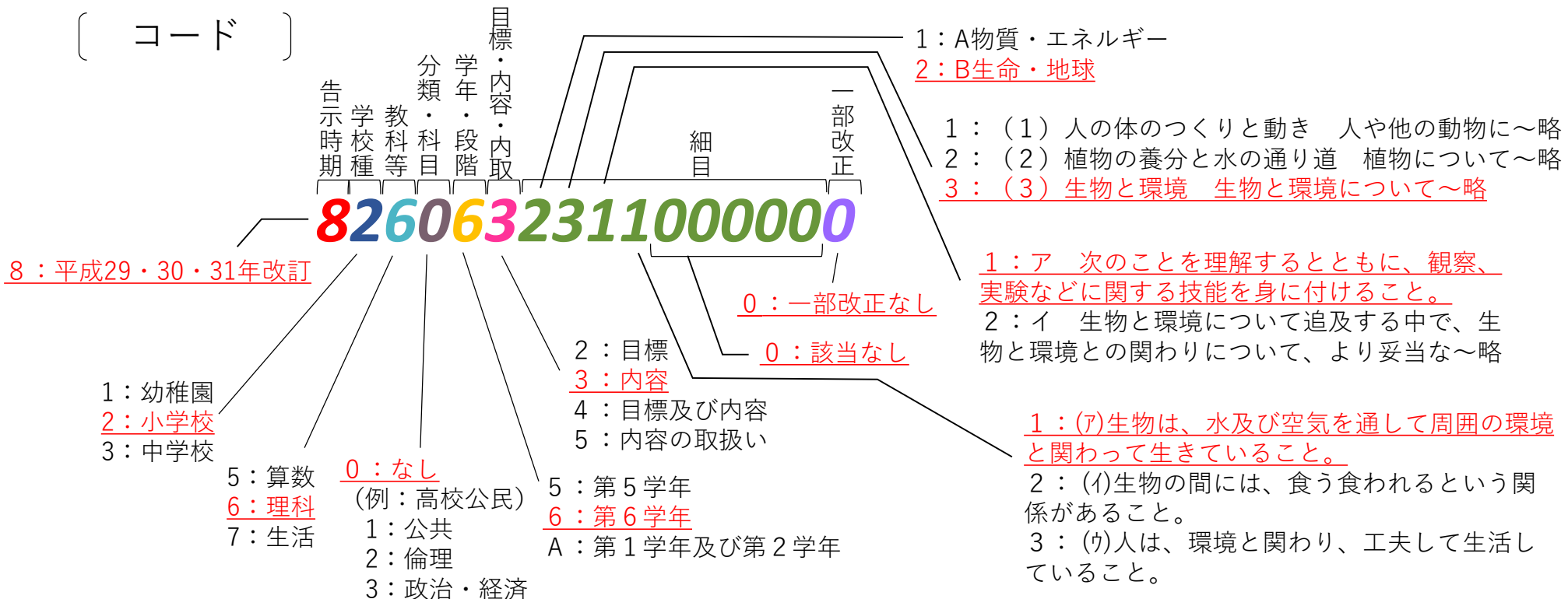
第6学年 B 生命・地球 (3) 生物と環境

生物と環境について、動物や植物の生活を観察したり資料を活用したりする中で、生物と環境との関わりに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかがわって生きていること

〔 コード 〕



学習指導要領コードの付与のイメージ②（中学校）

〔 内 容 〕

中学校学習指導要領

外国語（英語）2 内容

[知識及び技能]

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、（～略～）できるように指導する。

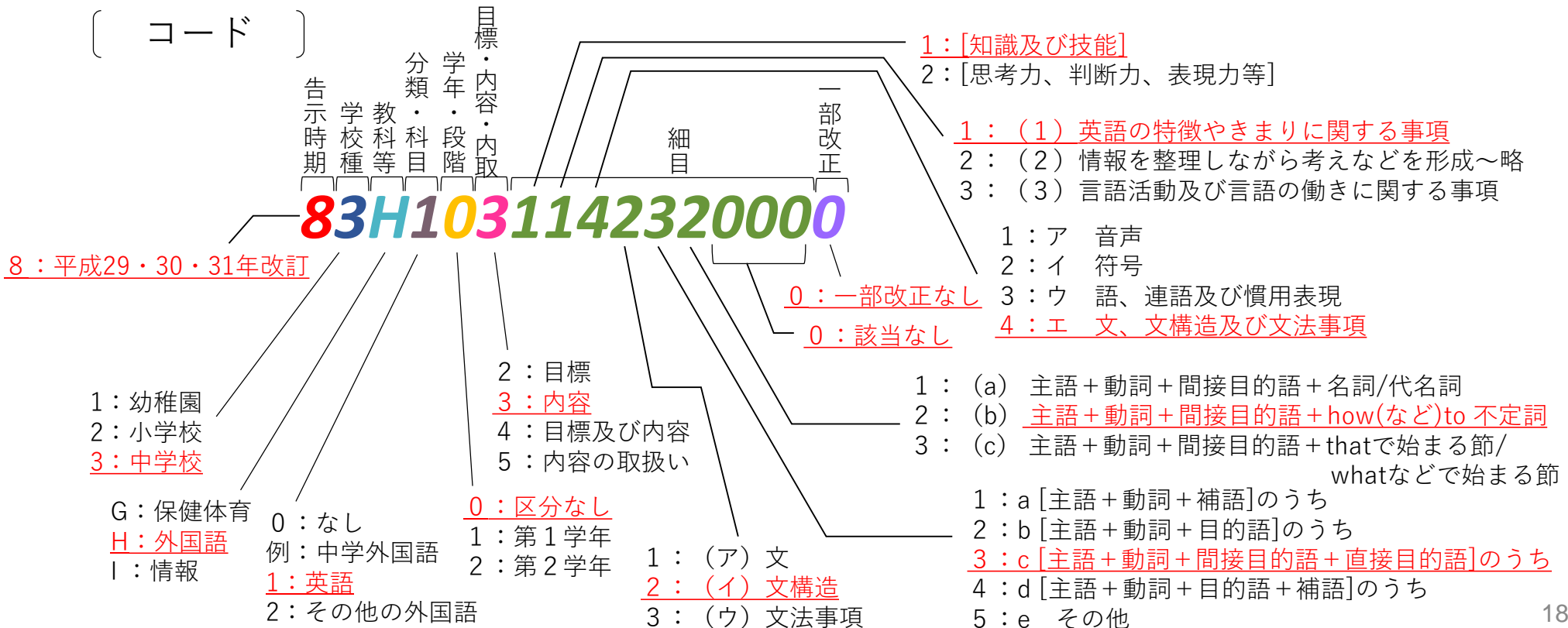
エ 文、文構造及び文法事項

(イ) 文構造

c [主語+動詞+間接目的語+直接目的語]のうち、

(b) 主語+動詞+間接目的語+how(など)to 不定詞

〔 コード 〕



学習指導要領コードの付与のイメージ③ (高等学校)

〔 内容 〕

高等学校学習指導要領

第3章 主として専門学科において開設される各教科

第2節 工業

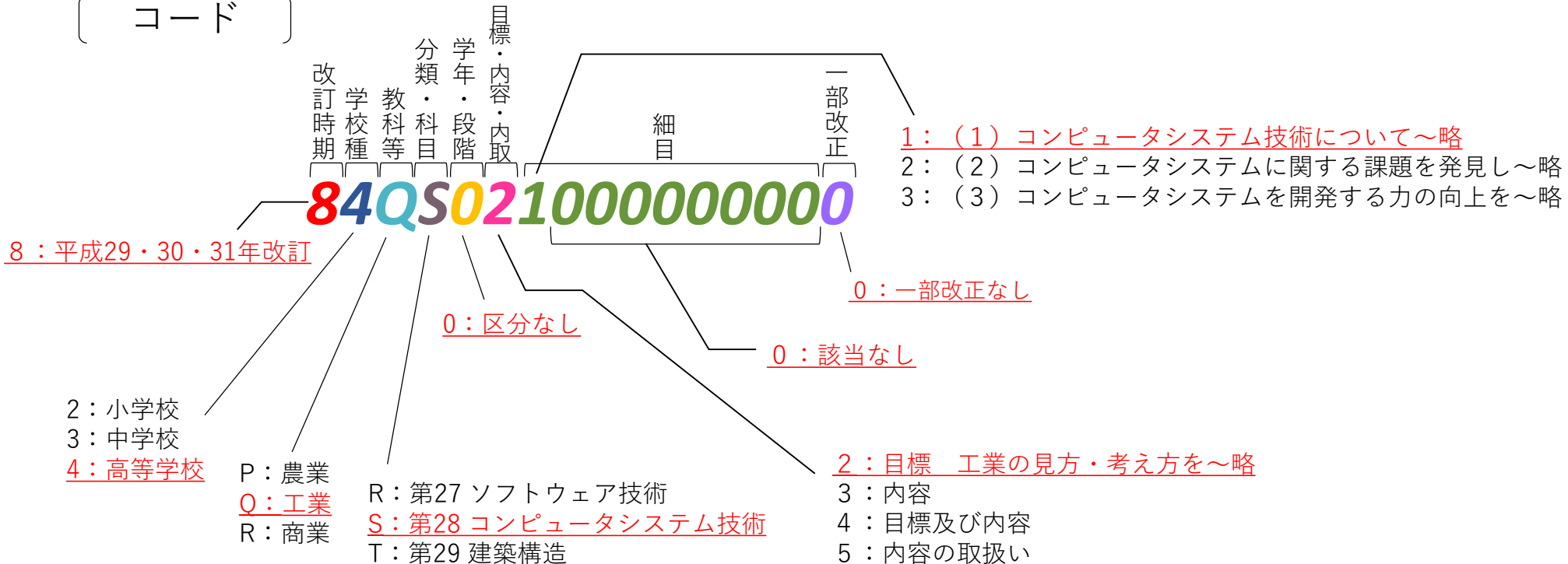
第28 コンピュータシステム技術

1 目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを
通して、コンピュータシステムを活用した情報処理の効率化に必要な資質・
能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) コンピュータシステム技術について情報処理システムの運用を踏まえて理解する
とともに、関連する技術を身に付けるようにする。

〔 コード 〕



学習指導要領コードの付与のイメージ④（特支 高等部）

〔 内 容 〕

特別支援学校高等部学習指導要領
総 則

第2節 教育課程の編成

第2款 教育課程の編成

3 教育課程の編成における共通的事項

(1) 視覚障害者，聴覚障害者，肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校における各教科・科目等の履修等

イ 各教科・科目の履修等

(ア) 各学科に共通する必履修教科・科目及び総合的な探究の時間

㊦ 全ての生徒に履修させる各教科・科目（以下「必履修教科・科目」という。）は次のとおりとし、その単位数は、アのイに標準単位数として示された単位数を下らないものとする。ただし、生徒の実態及び専門学科の特色等を考慮し、特に必要がある場合には、「数学Ⅰ」及び「英語コミュニケーションⅠ」については2単位とすることができ、その他の必履修教科・科目（標準単位数が2単位であるものを除く。）についてはその単位数の一部を減じることができる。

a 国語のうち「現代の国語」及び「言語文化」

1：第1節 教育目標

2：第2節 教育課程の編成

1：第1款 高等部における教育の基本と教育課程の役割

2：第2款 教育課程の編成

1：1 各学校の教育目標と教育課程の編成

2：2 教科横断的な視点に立った資質・能力の育成

3：3 教育課程の編成における共通的事項

1：(1) 視覚障害者，聴覚障害者，肢体不自由者…略

2：(2) 知的障害者である生徒に対する教育を…略

1：ア 各教科・科目及び単位数等

2：イ 各教科・科目の履修等

3：ウ 各教科・科目等授業時間数等

1：(ア)各学科に共通する必履修教科・科目及び…略

2：(イ)専門学科における各教科・科目の履修

1：㊦ 全ての生徒に履修させる各教科・科目…略

2：㊦ 総合的な探究の時間については、全て…略

1：a 国語のうち「現代の国語」及び「言語文化」20

2：b 地理歴史のうち「地理総合」及び「歴史総合」

〔 コード 〕



8：平成29・30・31年改訂

1：幼稚園
2：小学校
…

B：特別支援学校高等部
(障害分類なし)

1：国語
2：社会
…

1：総則

0：区分なし
1：第1学年
2：第2学年

0：区分なし
〔参考：特支高（保健医療）〕

1：医療と社会
2：人体の構造と機能

0：区分なし
1：ねらい
2：目録

0：一部改正なし

0：該当なし

一部改正

細目

学習指導要領のコード付与による桁ごとの検索の活用イメージ



学びの全体像を把握したい

第2桁（学校種別）によりソート → 検索した学習指導要領を確認可能

その学年で何を学ぶか

第2桁（学校種別）、第5桁（学年・段階）によりソート
→ その学年で学ぶ内容全体を確認可能

その教科で何を学ぶか

第2桁（学校種別）、第3桁（教科）によりソート ※必要により第4桁（分野・科目・分類）をソートに加える。
→ その教科（分野・科目・分類）で学ぶ内容を確認可能（発達段階に応じて何を学ぶか系統立てて理解可能）

検索の活用イメージの具体例

教科の目標と関連した内容の授業実施を
サポートできる

例1) 体育において、教科自体の目標と各学年の内容の関係を把握したうえで授業を実施したい。

→ 「第3桁（教科：[G]体育），第6桁（目標[2]）」 & 「第3桁（[G]体育），第5桁（学年段階：[D]5,6年生），第6桁（[3]内容）」をソート

例2) 特別な支援を必要とする児童生徒のサポートのため、

特支の指導要領と小学校の指導要領を関連づけて国語のカリキュラムを作成したい。

→ 「第2桁（学校種別：[8]特別支援小学部知的），第3桁（教科：[1]国語）」 & 「第2桁（[2]小学校），第3桁（[1]国語）」をソート

異なる学校種を通貫した
カリキュラム作成をサポートできる

学習指導要領のコード化により想定される効果

	想定される効果
各学校	学年間・教科等間を見渡したカリキュラム・マネジメントの推進 (環境教育、道徳教育、情報活用能力の育成など)
教育委員会 教育センター	①開発した指導資料、副教材のデータベース化 ②教員研修の講座や研修履歴のデータベース化など
文部科学省 国立教育政策研究所	①国で開発した指導資料や教材のデータベース化 ②全国学力・学習状況調査等の問題や指導案例のデータベース化 など
教員養成大学	①学習指導要領と紐づけた教職科目の設置 ②学習指導要領と紐づけた研究業績の確認など、教職課程認定の簡略化
博物館・図書館・ 公文書館等	博物館等で整備されているデジタルアーカイブと学習指導要領との紐づけ
教科書発行者 教材会社	①発行した教科書や副教材(含:デジタル教材)のデータベース化 ②各種指導の参考書や指導資料のデータベース化 など

学習指導要領コード 活用イメージ①：教科書・教材等の連携

- ▶ 学習指導要領をキーにして、各民間事業者のデジタル教科書・教材ツール・学習ツールや、博物館のデジタルアーカイブを関連付けすることができる。

学習指導要領（小学6年社会）

3 内容の取扱い

(2) 内容の(2)については、次のものを取り扱うものとする。

ウ アの(ア)から(コ)までについては、例えば、次に掲げる人物を取り上げ、人物の働きを通して学習できるよう指導すること。～略～ 織田信長…

学習指導要領コード 82206523K0000000

学習指導要領コードで自動的に連携

A社
デジタル教科書



82206523K0000000

B社 学習ツール
(デジタル教材)



82206523K0000000

C社 学習ツール
(デジタル問題集)



82206523K0000000



82206523K0000000

博物館
デジタルアーカイブ



① デジタル教科書の該当ページを「ポチッ」

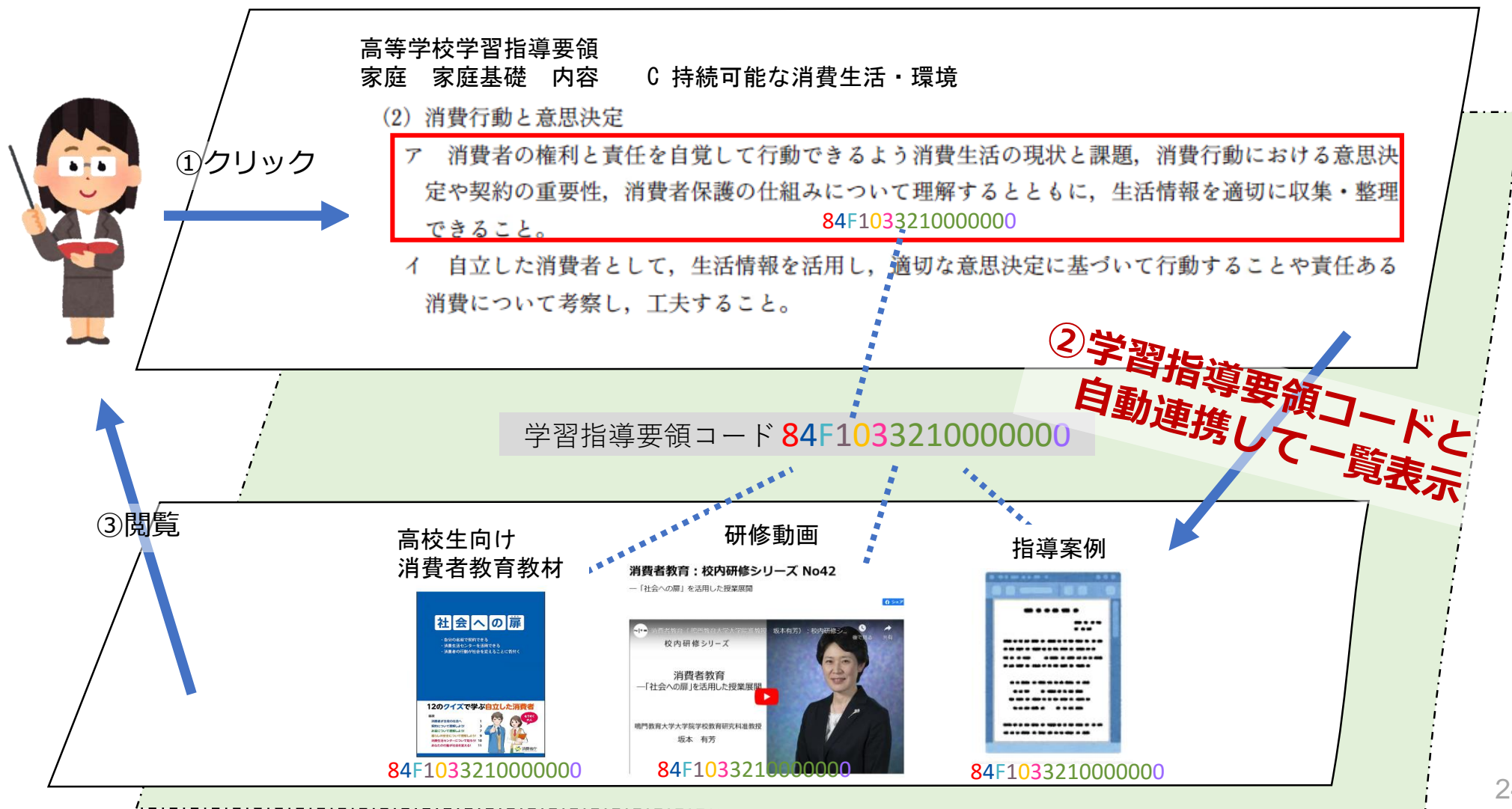
② 関連する教材・問題が自動的に表示

③ 問題解答

④ 解答に関連する資料が表示される

学習指導要領コード 活用イメージ②：教材等のデータベース化

- 国や教育委員会・研修センター等で作成した各種手引き・副教材・研修教材・指導案例等に学習指導要領コードを付与
- 学習指導要領の該当箇所をクリックすれば、関係する資料が一覧的に表示



学習指導要領コードの「付加情報」の扱い

- 学習指導要領のコード（16桁）に加えて、資質・能力の3つの柱のどこに該当するか等の「付加情報」を追加して活用することも想定される。
- 一方、付加情報を追加する場合、どのような活用場面を想定して、何をどのように付加するか等の有識者や現場の意見も踏まえた十分な検討が必要である。
- G I G A スクール構想により学習履歴をデジタルでの蓄積が急速に進む中、可能な部分から教育データの標準化を進めるべきであり、今回は、機械的に付与できるコード本体の定義を早急に行ってデータの利活用を始めることとし、付加情報は今後の検討事項とする。
- 付加情報の在り方は、今後、調査研究等により検討することとする。

（学習指導要領コード付加情報のイメージ）

例1）：資質・能力の3つの柱のどこに該当するか



- 1:知識・技能
- 2:思考力・判断力・表現力等
- 3:学びに向かう力 人間性等

例2）：〇〇に関する教育



- 1:環境に関する教育
- 2:金融に関する教育
- 3:法に関する教育

参考：文部科学省「新時代の学びを支える先端技術活用方策（最終まとめ）」令和元年6月

(ii) 具体のイメージ

学習指導要領のコードは、～略～。さらに個々のコードに付加情報（例えば、用途別（指導案・問題等）、難易度等）を追加するかについても検討を行う。